

林野庁

「木質バイオマスのエネルギー利用」

検討会資料

平成23年6月14日

鹿島建設株式会社



木質バイオマス発電事業実例

市原グリーン電力

2008年2月：稼動開始
発電規模：5万kW
廃建材：19万t/年
廃プラ：6万t/年
出資者：三井造船(株)
三井物産(株)
鹿島建設(株)



市原グリーン電力・木質バイオマス利用スキーム

新エネルギー供給(株)
(廃棄物燃料供給)

循環資源(株)
(燃料製造保管)

市原グリーン電力(株)
(発電事業)

木屑
19万t/年

チップ化
施設

木チップ貯蔵

廃プラ
紙屑
6万t/年

RPF製造施設

RPF製造施設

RPF貯蔵

ボイラー
発電施設

焼却灰
1.5万t/年

市原グリーン電力・循環流動層ボイラーのフロー

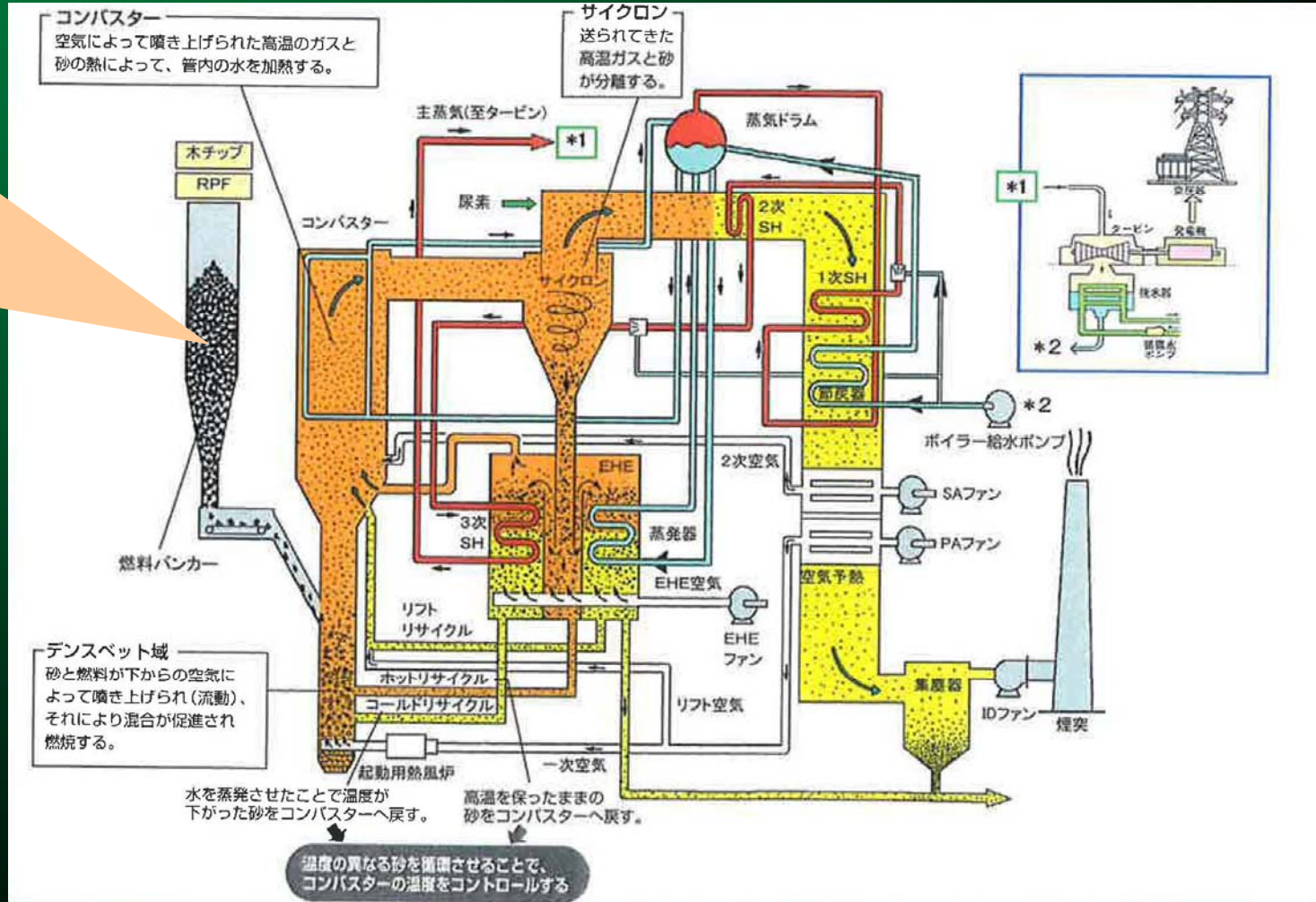
新エネルギー 供給(株)



木チップ



RPF (レフューズ・ペーパー&プラスチック・フューエル)



その他：当社の森林保全取組み

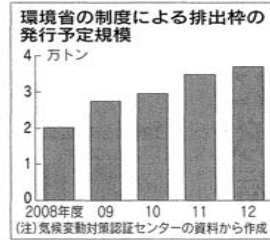
日経新聞2010.9.4

アサヒビルと鹿島は、社有林から二酸化炭素(CO₂)排出枠を得る事業をそれぞれ始める。間伐などの森林整備を実施し、両社合わせて年間で1万トンを超える排出枠を確保する。政府が検討する企業の排出量上限を定める排出量取引制度をにらみ、社有林を環境経営に生かす。

社有林保全でCO₂排出枠



間伐を施して排出枠を生み出す(宮崎県延岡市の鹿島の社有林)



アサヒビル 鹿島 宮崎・福島で展開

事業を制度の対象として、08・12年度の5年登録した。約700haの間の事業計画に対して10登録、宮崎県内の約80haスギやヒノキの森の間伐月にも第三者認証を受と福島県内の約40haの社を推進。残った木を多く、累計約9200トンの有林で、スギやヒノキなど育ててCO₂吸収量を増 排出枠を得る。どの間伐を実施する。12

排出量規制にらむ 他社への販売も

年度までの5年間で累計の7割に達しており、他約2400トンの排出枠を社への販売も見込める。取得する。 達上国への省エネ支援。 自社の工事現場のCなどに由来する排出枠をO。を相殺し「CO₂ゼロ市場で購入するより割高」の施工とする用途に。だが、これまで利益につ使う。施工の発注側から。なからなかつた間伐から環境配慮を求められる。価値を生み出せる。国内Iがが増えており、受注。林業の活性化により社会獲得の際アサヒビルする。貢献にもなる。

排出量取引制度が導入。環境省の排出枠制度へ。されれば、自社のCO₂の登録は8月末時点で34排出を排出枠の購入。相。件があるが、住友林業や主殺する必要がある場合。子製紙など木材に深くかがある。社有林からは排。かわる企業以外は各地の。出枠を毎年得られ、コ。林業組合や自治体による。トの抑制に役立つ。国。ものが大半。政府が6月協力銀行「BIC」の調。略は林業再生を盛り込込。査に基づく排出枠を。度には林業再生を盛り込込。度に基づき排出枠を。増える可能性もある。



鹿島社有林整備吸収源プロジェクトその2(福島)

プロジェクト
種類: 間伐促進
場所: 福島県猪苗代町及び天栄村
クレジット発行見込: 126 [tCO₂/年]

キーワード
広葉樹林整備
社有林整備
生物多様性に優れた美しい森林



プロジェクト紹介

鹿島建設は、全国に約1000haの山林を所有しグループ会社のかたばみ興業(1941年(昭和16年)鹿島建設(当時鹿島組)の山林部から独立)に山林の管理・施業を委託している。材価が低迷し従来行ってきた森林施業の継続が難しくなっている中、CO₂の吸収増大、生物多様性に適した環境の創造、森林体験や癒しなどの新しい森林の環境価値を創造・活用するために社有林の整備を実施している。本プロジェクトは、スギ・ヒノキ林の間伐に加えて広葉樹林の間伐(抜き切り)、弦切り、下草刈りなどにより魅力ある広葉樹林整備を実施するサイトとして福島県耶麻郡天栄村の羽鳥山林及び福島県耶麻郡猪苗代の日影山山林をとりあげ、生物多様性にも優れた美しい森づくりを行い、同時に温室効果ガスの吸収力を高めるものである。

イメージ図/写真



写真1 羽鳥山林



写真2 日影山山林全景



写真3 広葉樹間伐実施状況

お問合わせ先: 鹿島建設環境本部地球環境室 (TEL:03-5544-0743 担当: 三浦)